

日本側拠点機関名	名古屋大学
日本側コーディネーター所属・氏名	文学研究科・阿部泰郎
研究交流課題名	テキスト学による宗教文化遺産の普遍的価値創成学術共同体の構築
相手国及び拠点機関名	アメリカ・コロンビア大学 フランス・コレージュ・ド・フランス ドイツ・ベルリン自由大学

研究交流計画の目標・概要

【研究交流目標】交流期間(最長5年間)を通じての目標を記入してください。実施計画の基本となります。

人類が創出した文化の所産は、その普遍的価値を等しく認められ、尊重されるべき共通の遺産だが、その頂きに立つ宗教の生み出し、その象徴となる遺産は、過去にも、とりわけ現在の世界の状況において、危機に瀕している。多様性を認め、異質な文化と共生することを理想とする社会にあって、人文学が果たすべき責務のひとつに、人類の宗教文化の遺産についての普遍的な意義を、その情報を含め、諸研究機関の連携による分野間の学知の総合によって見出し、提言する学術創成が求められる。そのための総合的な研究の蓄積と理念において領導する欧米の中核拠点大学との、国際共同研究が必要とされている。世界各国の文化機関(博物館・美術館・大学・図書館等)所蔵分を含めて、各地に伝えられる宗教が生み出した文化遺産に対する総合的なテキスト学による探査と研究を推進する先端的国際研究拠点を、名古屋大学文学研究科の「人類文化遺産テキスト学研究センター」に構築する。このCHTでは、日本/アジアの宗教文化遺産のアーカイブ化と探査で挙げた大きな成果を、まずコロンビア大学、コレージュ・ド・フランス、ベルリン自由大学との成果の共有を通じて連携し、中堅・若手研究者の相互交流による広域な大学間および文化機関間の研究集会や国際ワークショップ開催による「宗教テキスト文化遺産」研究コンソーシアムの活動を立ち上げる。

この国際学術連携を通じて、5年間で、日本を中心に(アジア/ヨーロッパ/中東等を包摂した)世界的な宗教テキスト文化遺産の普遍的価値の認識を共有し、そのアーカイブ化を通じた情報共有と、人文学における宗教テキスト研究が有する画期的な学術上の発展可能性を、最先端の国際共同研究によって提起する。

【研究交流計画の概要】 共同研究、セミナー、研究者交流を軸とし、研究交流計画の概要を記入してください。

コロンビア大学日本東アジア学部とは、^{ライフサイクル}生の循環を主題とする共同研究を通じた、国際的な宗教テキスト研究を遂行、30年度にニューヨークで大規模な国際学会を催行する。この前後に、米国とカナダの大学、諸文化機関とのセミナー、国際ワークショップを日本国内外で逐次開催し、他の連携研究大学メンバーも招聘する。コレージュ・ド・フランスの宗教学講座とは、「聖語(ヒエログラシア)」を主題とする共同研究を開始し、29年度にパリで「論議・宗論」の国際研究集会を開催し、これを起点としてヨーロッパ各国の宗教学研究者による宗教テキスト文化遺産の総合的共同研究を、ストラスブール大学、ハイデルベルク大学、ロンドン大学等において、美術の探査と、先端研究の成果をジャンルを超えて共有し、議論を活性化させる。その成果は、E A J S等の国際学会にも反映させる。世界的な視野の許での宗教テキスト遺産学の構築を目指し、ベルリン自由大学のCOEと連携し、エジプト、オリエント、アジアの歴史、考古、文献学などの融合による広域人文学研究としての共同研究を開始する。33年度にベルリンで大規模な国際研究集会を、「世界の宗教遺産とテキスト学」をテーマとして開催すると共に、ハンブルク大学との国際写本研究と提携する。この間、名古屋大学においては人間文化研究機構(日文研)や南山大学宗教研究所と連携しつつ、毎年宗教テキスト学の大学院生交流セミナーを開催。最終32年度には、全参加機関の研究者が全て参集する、大規模な国際学会を開催する。

